

2025年12月10日
昭和産業株式会社

食品飲料業界 10 社による、障がい者同士の初めての交流会 「エッキョウサミット」へ参加 ～12月9日(火)開催～

昭和産業株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長執行役員：塚越英行）は、サッポロビール株式会社が主催し、食品飲料業界企業 10 社が参加する障がい者同士の初めての交流会「エッキョウサミット」に参加いたしました。同交流会は、障がい者週間にあたる 12 月 9 日（火）に開催されました。



障がい者の働く環境課題の一つとして、各企業の障がい者同士の情報交換や交流の場が少ないことがあげられます。各企業で活躍している障がい者が各自の視点で業務上の工夫や成功体験、日頃感じている課題などの情報を交換することで、今後の障がい者活躍推進における課題解決および個々人のモチベーションアップに繋げたいという思いから、交流会が企画されました。

今回の交流会では、サッポロビール株式会社の思いに賛同した食品飲料業界企業 10 社、計 41 名が集まり、障がい者同士の交流会を実施しました。

当日は、障がいの特性ごとにチームを編成し、日頃工夫していることの情報交換と個人では解決が難しい課題の解決方法を考えるワークショップを実施しました。情報交換では、体調管理の工夫や業務・日常生活を効率的に行うためのツール、行政サービスの活用方法、周囲とのコミュニケーション方法など、障がい特性に応じた実践的な情報が共有され、参

加者にとって新しい発見がありました。また、課題解決に向けたワークショップでは、個人では解決が難しい課題に対し、企業や社会にどのように働きかけられるかなど、具体的なアプローチ方法をチームで検討し発表しました。今後は、今回得られたアイデアを実行に移し、成果報告会を実施するなど、企業の枠を超えた障がい者活躍推進の取り組みを継続していきます。

昭和産業グループは、長期ビジョン「SHOWA Next Stage for 2025」ならびに中期経営計画 23-25に基づき、人的資本経営の推進およびダイバーシティ & インクルージョン(D&I)の強化を重要な経営テーマとして取り組んでいます。“人財”を企業価値の源泉と捉え、一人ひとりが安心して能力を発揮できる職場づくりを進めることで、企業の持続的成長と従業員のウェルビーイング向上の実現を推進しており、その中でも、障がい者の雇用、活躍推進は重要な取り組みのひとつです。

当社では、D&I 推進室内に専門組織「INC 推進チーム」を設置し、障がいのある従業員が働きがいを持って長く活躍できるよう、個々の特性に合わせた職場配置、業務の切り出し、職域開発を計画的に進めています。定型業務だけでなく、データ整理など、新たな業務領域へのチャレンジも増え、メンバーのスキル発揮や成長につながる取り組みが進んでいます。こうした取り組みの結果、2025年3月末時点の障がい者の雇用率は2.6%となり、前年度に続き法定雇用率の達成を実現しました。

昭和産業グループは、今後も多様な人財が安心して働き、互いに力を高め合いながら成長できる環境づくりを推進し、社会に貢献する企業グループとして取り組みをさらに広げてまいります。

(参考) 昭和産業グループ統合報告書 2025

<https://www.showa-sangyo.co.jp/Portals/0/ir/library/integ%20repo2025/Showa%20IR2025J-28.pdf>

■ 障がい者同士の交流会「エッキヨウサミット」詳細

1. 交流会名称

エッキヨウサミット

2. 参加企業

(主催)サッポロビール株式会社

(参加企業)アサヒビール株式会社、味の素株式会社、キリンホールディングス株式会社、サッポロ不動産開発株式会社、サントリーホールディングス株式会社、昭和産業株式会社、株式会社ニップン、ポッカサッポロフード & ビバレッジ株式会社、株式会社 明治(50音順)

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 企画部コーポレート・コミュニケーション室

TEL : 03-3257-2042 担当：関口